

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

---2023年8月1日・第83号---

<目次>

●小学校4年生以上に毎年実施する、川崎市学習状況調査はだれのため？

■川崎市ぜん息患者医療費助成制度の廃止反対のたたかいと今後の方向

▲お知らせコーナー

☆2023年度教科書展示会(2024年度からの小学校教科書を展示)

☆8/9 市民集会「市民館・図書館、指定管理にしちゃっていいの？」

☆8/12 報告集会「リニア訴訟の今後と工事中止への取組み」

☆8/20 ゆめホールシネマ倶楽部「蟻の兵隊」

★編集後記

●小学校4年生以上に毎年実施する、川崎市学習状況調査はだれのため？

川崎市教職員連絡会(職員団体)は、7月26日に、川崎市教委と交渉を行い、「市の学習状況調査」の呆れた実態が明らかになりました。

<夏休み直前に、4月のテスト結果表が返されました。>

調査目的は、「4月に前年度の学習状況を調査し指導にいかす」というものです。

しかし、結果の個人票は、夏休み直前に急いで子どもたちに返されました。

<個人票を受け取った子どもと保護者はこの個人票をどう受け止めたでしょう。>

個人票には、4月から7月まで新学年で子どもたちが努力し、変容したことへの評価はまったく入っていないのですから、これが「今の子どもの学習状況か」と思うのは当然です。

<明らかな誤誘導です。>

個人票の返却遅れは、委託先のベネッセが6月末まで、類似した調査を各地で実施していたからなのか、「問題用紙は6月末まで子どもに返してはいけない」と決めています。

<こどもが優先でなく、ベネッセが優先なのです。>

元中学の数学教師は、「川崎では多くの学校で、4月に数学復習テストを実施し、すぐに答案を採点し返却し、前学年までの学習状況を把握し、新学年の指導に活かしてきた。」と述べました。

二つの調査手法を比べれば、今回のベネッセの「学習状況調査」のひどさが際立ちます。それなのに、川崎市は、委託料として、9811万円(約1億円)を支払うことになります。

<架空の「全国平均」のでっち上げは許されない>

個人票の一番上欄に、教科ごとに、「あなた」と「全国平均」の「正答率」を比べています。子どもも保護者も、この欄の記述に、まず、一喜一憂することは明らかです。

しかし、「全国平均」とは、「ウソ」です。このテストを実施したベネッセが、全国の学校の学習状況調査を行った事実はありません。

全国の平均など出せないのです。

そもそも、文科省の全国学習状況調査では、結果の個人票には、教科ごとの「自分の正答数合計」と「全国平均」の記載はしていません。

教科の「全国平均」を表示すれば、学力競争をあおり、競争を過熱させると大論争となり、現在も、慎重な対応をしてきたのです。

この日の交渉で、「この調査を実施したのは、全国のどこか？」との質問に、市教委担当者は「知っているが、答えられない。」と驚くべき回答をしました。

調査をした人数も地域も非公開とし、全国でやってもいないのに、それでも「全国平均」とウソの表示をしているのです。

子どもたちの教育の場で許されないことです。市教委の危機意識の薄さも心配です。

<川崎市の学習状況調査の是非についての世論を盛り上げていきましょう>

この問題では、市教委の報道発表をうのみにした新聞やネット上での「べた褒め」情報が拡散中！報道発表と学校の実態の違いを取材した情報はゼロです。

ぜひ、「川崎市学習状況調査」の是非を、身近な話題にしていきましょう。

「新しい川崎」のホームページにも意見をお寄せ下さい。

■川崎市ぜん息患者医療費助成制度の廃止反対のたたかいと今後の方向

2023年6月29日、川崎市議会本会議で、成人ぜん息患者と小児ぜん息患者に対する医療費救済制度の「廃止」が決まりました。

メルマガ『新しい川崎』は、廃止反対を数回にわたり、意見表明をしてきただけに、大変、悔しい思

いです。

今回、この廃止反対運動で大奮闘した公害根絶市民連絡会の昼間忠男さんに聞きました。

今回の運動の目標は？

- 1, 「廃止条例」を撤回させる。
- 2, 「制度廃止」の大本に「福田行財政改革」がある事を知らせ、共同の行動を広げる。
- 3, 「福田行財政改革」反対の共同の運動を強め、2025年市長選挙で市政を変える。

運動の目標に対して、その結果をどう評価すべきか？

第1の目標である「制度廃止」は阻止できず、2024年3月で廃止となる。

但し、2026年3月までの2年間は医療費助成が続く。まだあきらめる必要はない。

第2の目標である「共同の行動」の広がり点では、7ヵ月間に4回の市役所前行動を100人規模で成功させ、4回目は「4者共同行動」として共同のたたかいを広げることができた。

この闘いを通じて「福田行政改革」がその大本にあることがわかり、更にこれからの共同闘争の広がりも見えてきた。

今後、教員不足解消の運動、18歳までの医療費無料化の運動、学校給食の無料化の運動などに引き継がれることを期待している。

そして、50年にわたる公害反対運動が市民の中にしっかり根付いていることが証明されたと思う。

今後の運動の方向は？

現在、約2万人もいるぜん息患者の把握はできていない。

しかし、2024年3月までは認定申請ができるし、2026年3月まで助成は受けられる。

「川崎公害病患者と家族の会」は、他団体と協力して「駆け込み申請運動」を進めていく。

今回、共産党以外の会派の議員は、委員会での発言をほとんど行わず、ただ、賛成の採決だけをした。

川崎市議会のチェック機能がいちじるしく劣化している。市会議員への市民のチェックと批判が必要だ。

共同行動は広がったとはいえ、「福田行財政改革プラン」が発表された2021年当初からの運動が不十分であったため、追い込まれてからのたたかいとなり「廃止反対」の大きな世論をつくりきれ

なかった。

他の運動の教訓にしてほしい。

夏以後は、「福田行財政改革」反対の多彩な企画をそれぞれの運動がすすめていくことが大切だ。
1つでも、福田行財政改革にストップをかけることに成功すれば、運動は一気に広がるだろう。

そして、その流れを2025年の川崎市長選挙に引き継いでいきたい。

2025年秋に市長を変えれば、ぜん息患者医療費救済制度の復活は可能だと私は思っている。

▲ お知らせコーナー

☆2023年度教科書展示会(2024年度からの小学校教科書を展示)

1, 麻生市民館 7月28日から8月2日まで 10時から18時まで

※12時から13時までは閉室です。

☆ 市民集会「市民館・図書館、指定管理にしちゃっていいの？」

8月9日(水)午後2時~4時

高津市民館第6会議室(12階)

参加費 500円

連絡先 090-6153-9566(岡本)

☆ 報告集会「リニア訴訟の今後と工事中止への取組み」

8月12日(土)午後2時

麻生市民館 第1会議室

連絡先 090-6108-6568(矢沢)

☆ゆめホールシネマ倶楽部「蟻の兵隊」

8/20(日) かわさきゆめホール

①9時 ②12時 ③15時

一般:1000円 障がい者:500円 学生以下:200円

当日:各500円増

★ 編集後記

今回で 40 回を迎えたかわさき演劇まつり。

ミハエル・エンデの『モモ』が多摩市民館ホールで開催されました。

「モモ」はドイツで出版されてから 50 年。

大変注目された中での公演でしたが、猛暑の中 2,126 人の市民を迎えて盛況でした。

アンケートには、「市民劇とは思えない演技、美術や音楽、」そして、「エンデの描いた世界を忠実に描きつつも現代に通じるメッセージをしっかりと発信。」

「3 回も涙を流した。」など、感動の言葉が並びます。

「過去 1 番の『モモ』をつくる」と豪語した大西演出ですが、その言葉に恥じない世界を作り上げました。

こんな素晴らしい演出家が川崎にいると言うことを誇らしく思います。

来年、川崎市制 100 周年を記念して初代市長となった石井泰助の生涯を描く「郷土市民劇」も大西さんが演出します。

単なる偉人物語でなく市政のあり方を見つめ直すような素敵な演出を期待したい(Y)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/pnpNPRbfVMBX?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください再度登録を行ないます。

mailmag@newkawasaki.jp